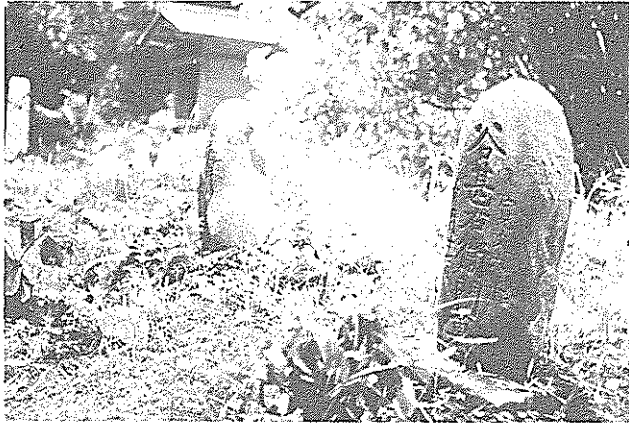


# 新しく市指定の史跡に

## 谷秦山先塋の地

このほど、市文化財審議委員会(北岡博会長)では、「坂本龍馬祖先の墓」とも、「谷秦山先塋の地」「奈路の堀割」を、市の史跡として指定しました。今回は、「谷秦山祖先の墓」について紹介します。

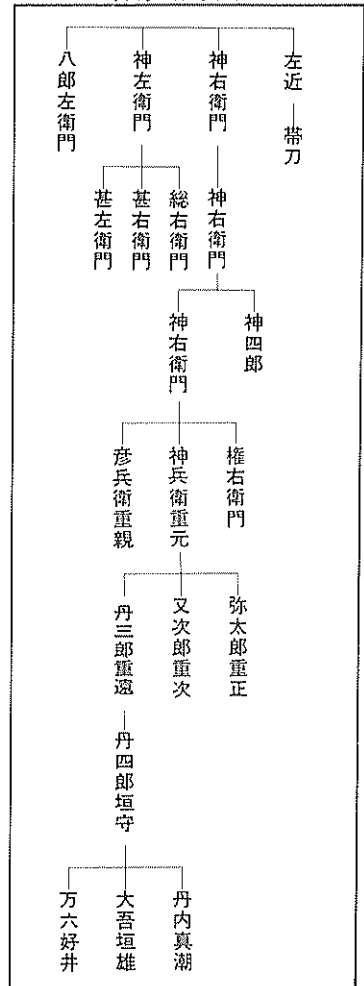


秦山の祖父にあたる神(甚)右衛門の墓(写真右)



谷家邸跡

谷家略系図



岡豊橋を渡って、しばらく歩を北へ進ぶと、西側に小高い丘がある。忠霊塔の北側に連なる小丘である。本道に分かれて、雑草の茂る小道をすこし登ると、笹草の中に、墓石の点在するところに出る。ここが谷家先塋の地である。

墓石は、川石などの自然石を用いた、ごく粗末なものである。谷家は、大和の主命の子孫といわれ、大和の国三輪山の谷に住んでいたため、谷を姓としたと思われる。いつのころ、土佐にきたのか不明であるが、祖先の職務であった神職を業

として、土佐で発展した。すなわち岡豊八幡宮の神官として、代々の職を受け継いできた。谷左近は、永祿のころ、長宗我部氏に仕えて武士となった。左近の子帯刀には、子がなかったため、左近の弟神右衛門が宗家を継いだ。左近には、ほかに神左衛門・八郎左衛門の弟があった。神左衛門は元親に仕えて山田郷を監し、八郎左衛門は秦泉寺城を監したといわれる。

兄左近の家を継いだ神右衛門(重四郎重次とも書く)は、天正十五年(一五八二)に死去し、子神右衛門が二代目を継いでいる。二代神右衛門は、長宗我部氏滅亡後浪人となった。神右衛門のあとを神七郎が継ぎ、三代神右衛門を名乗った。この神右衛門は、秦山の祖父であり、野中兼山の信望が厚かった。彼は寛文六年(一六六六)十月二十七日、七十九歳で生涯を閉じたことが墓石から読みとられる。

(一七〇六)に没した。次子又次郎重次も山内家に召し出されたが、後継ぎがなく元禄五年(一六九二)江戸で病死した。三子が丹三郎重遠であり、「土佐学の始祖」といわれる、谷秦山その人である。秦山の墓は、土佐山田町ぐいみ谷にあり、受験合格の神として参拝者が多い。なお、谷家邸跡は、八幡岡の浦天主社の東隣である。

以上は、岡豊村史、市文化財めぐり案内(市教委発行)から

三代神右衛門のあとを神兵衛重元が継いだ。すなわち秦山の父であり、文武の道に練達していたといわれる。しかし重元は、岡豊を去って居を高知に移した。重元の時代は、家計は決して楽ではなく苦しい日々の生活が続いた。重元は元禄元年(一六八八)十一月一日貧窮のうちに亡くなっている。重元に三人の男子と三人の女子があった。長子弥太郎重正は、四代藩主山内豊昌に仕え、宝永三年

